

茶道と就職活動

約15年前、ワック株式会社の鈴木社長から遠州流茶道をご紹介いただき、茶道をはじめました。これまで、社員のお誕生日や海外からのお客様などにお茶を振る舞い、大変喜んでいただきました。日々、お茶を点てることで、茶人としての心を持ち続けています。今回は、茶道で得た学びと就職活動を照らし合わせてお伝えします。



千 利休が豊臣秀吉にお茶を点てた逸話はあまりにも有名ですが、そこから

茶道は発展を遂げ、現在では500を超え、流派が存在すると言われています。また、海外では抹茶ブームが起り、約140年前には岡倉天心による英語の著書『茶の本』が出版され、日本でも出版されました。抹茶は日本人だけの文化ではなく、日本人がワインを嗜むように、多くの国々で抹茶が楽しまれています。

私が茶道を学び始めた頃は「高価なお茶碗や和菓子が必要なのではないか」「完璧な和室の用意が必要なのではないか」と思い込み、ハードルが高く感じられました。しかし、学びを深める中で、本当に大切なものは真心であると気づきました。できる範囲で相手を想い、おもてなしをする。そのおもてなしの心が大切なのです。また、不完全さを心で補っていく「不完全の美」というものがあります。茶道には「満つれば欠ける」という考え方があり、花を飾る際も、満開の花ではなく、あえて蕾の状態の花を飾ります。お茶碗も、わざと歪みの

あるものを用いることがあります。完全ではないからこそ、そこに余白が生まれ、人の感性や想像力が入り込むのです。こうした日本の美意識は、今や世界からも高く評価されています。和食や和食器の影響を受け、フレンチの世界にも変化が見られるほどです。

あるものを用いることがあります。完全ではないからこそ、そこに余白が生まれ、人の感性や想像力が入り込むのです。こうした日本の美意識は、今や世界からも高く評価されています。和食や和食器の影響を受け、フレンチの世界にも変化が見られるほどです。

現

在、人の個性が薄れてきているようにも感じています。似たような価値観、考え方、行動が良しとされるのは、明治以降の日本の教育が「効率よく知識と技術を教えること」を重視するようになったことから始まったのではないのでしょうか。

人材育成や就職支援において、学生と接している、多くの学生が正解を求めすぎているように感じます。しかし、本当に企業が求めているのは、完璧な受け答えではなく、その人らしさです。苦手な部分があってもいい、完璧でなくてもいい。「これが好きだ」「これに夢中になってきた」という、自分らしい情熱を持っていることが大切だと思います。まさに「不完全の美」を求め

ています。等身大の自分を受け入れてくれる企業と出会うことが、ミスマッチを減らし、結果として幸せな仕事や人生につながるのだと思います。

また、蓄のように「これから成長していく人」であることも大きな魅力です。大学生は、まだ20年前後しか生きていません。だからこそ、向上心が何よりも大切なのです。AIには効率性や正確さがありますが、人間らしい不完全さ、感情、個性までは再現できません。だからこそ、これからの時代は自分らしさを表現できる人の価値が、ますます高くなると思います。大切なのは、正解を探すことではなく、日々の中で自分らしさを磨き続けることです。テクニクだけで就活を乗り切るのではなく、人と向き合い、おもてなしの心を学び、会話力を磨き、相手を思いやる心を育てていく。その積み重ねによって、結果として企業から必要とされる人へと成長できるのです。

茶道と就職活動という一見すると無関係に思える中にも、これからの時代を幸せに生き抜くヒントがあると云えます。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 **室舘 勲**
MURODATE Isao

2003年に株式会社キャリアコンサルティングを設立。全国で若者の育成に取り組む。千葉県教頭会第1ブロック研究大会、むつろータリークラブ創立65周年式典など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパンの講師・審査員。著書に『夢を見て 夢を叶えて 夢になる』(致知出版社)、『まずは上司を勝たせなさい』(講談社)、『「応援される人」にならなさい』(ワック)がある。



ブログ



Instagram